

宝物はすぐそばに

校内研通信

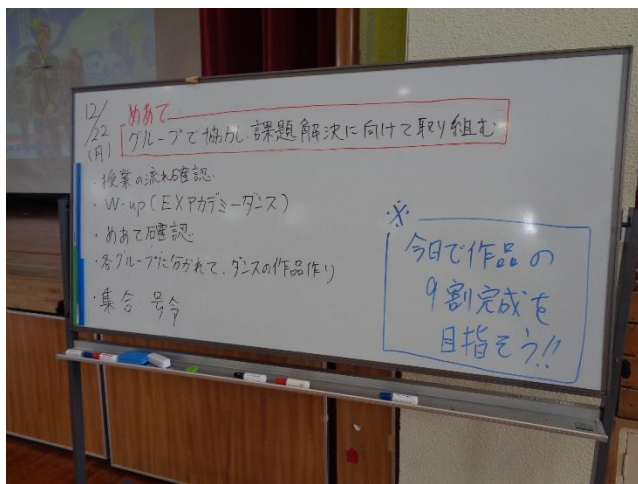
第44号

R7.12.22

発行者:校内研担当 仲村智

南風原中の“カリスマックス”はここにいた

12月22日(月)5校時、1年7・8組にて宮城匡先生が体育の授業を公開しました。本時のダンスの授業で、そのねらいは、グループで協力し課題解決に向けて取り組むことです。2012年の学習指導要領改訂に伴い必修化されたダンス、生徒にとっては何の違和感もなく男女仲良く動画を観ながらお互い協力してダンスの練習を楽しそうにしています。修学旅行前のフォークダンスでしか学校でのダンス練習を経験してこなかった私、あの手をつなぐ瞬間のドキドキした感情も記憶の片隅に、各班のアイデア溢れる練習風景が体育館中にひろがり、それぞれが身体を使って表現しようとする全員が参加する授業となりました。少し余談が過ぎましたが😊、単なる模倣ではなく非言語的コミュニケーションから意味や自分たちの課題をつかみ、それを解決していこうと促していく声かけを随所に観ることができました。匡先生、素敵な授業をありがとうございました🙏



RS
みつけた!

本日の

キーワード

非言語コミュニケーション

体育科のダンス指導は、非言語的コミュニケーション能力、記憶力、集中力、そして「意味をつかむ」といった認知能力を高めることで、間接的にRS（読解力）の向上に貢献する可能性がある。

「字ツラを追う」と「意味をつかむ」の決定的な違い：文章は読めても内容が頭に入らない子は、情報を表面的な記号としてなぞる「字ツラ読み」に留まっている。一方、理解力の高い子は、内容をイメージし、自分なりに解釈する「考える力（思考の土台）」を持っている。

なぜダンスが「理解力」を育てるのか：単なる模倣ではなく以下のプロセスを通じて思考力を鍛える。

意味の探求：「なぜこの動きか」「どう表現すべきか」を常に考える。

身体の制御：脳の指令を正確に体に伝える「感じて・理解して・動く」サイクル。

イメージ化：振付に込められた感情や情景を想像する力が、図形や文章の読解に直結する。

記憶力と注意力の向上：ダンスのルーチン（振り付け）を覚え、順序立てて実行する作業は、作業記憶（ワーキングメモリ）や注意集中力を鍛えます。これらの認知能力は、複雑な文章を読んだり、情報を処理したりする際の基礎的なスキルとして非常に重要です。